

チャペル週報

No.19

2017.10.23 ~ 10.27

雨も雪も、ひとたび天から降れば
むなしく天に戻ることはない。
それは大地を潤し、芽を出させ、生い茂らせ
種まく人には種を与え
食べる人には糧を与える。

(イザヤ書55章10節)



大学図書館屋上より

関西学院宗教センター

☆ チャペル・スケジュール ☆

時間 10:35～11:05 場所 各学部チャペル

- 10月23日(月) 神 山内 慎平 (神学部研究科M1)
経 宗教改革500年を記念して① 舟木 讓 (宗教主事)
人 笹場 育子 (人間福祉学部専任講師)
理 大宮 有博 (法学部宗教主事)
聖和 聖書物語「しずまったあらし・パンがふえる」
-
- 10月24日(火) 神 私にとっての宗教改革⑤ 井上 智 (神学部助教)
文 音楽チャペル バロックアンサンブル
社 音楽チャペル ゴスペルクワイア"P.O.V."
法 大宮 有博 (宗教主事)
経 宗教改革500年を記念して② Christian Morimoto Hermansen (宣教師)
商 高森 桃太郎 (商学部助教)
国 平林 孝裕 (宗教主事)
理 有澤 慎一 (日本基督教団八尾東教会牧師)
総 NPO法人 メインストリーム協会
教 田淵 結 (院長)
-
- 10月25日(水) 神 「あとになってわかる」 美濃部 信 (日本基督教団甲子園二葉教会)
社 「幸せ」って何だろう?⑦ 白波瀬 達也 (社会学部准教授)
法 Christian Morimoto Hermansen (宣教師)
経 宗教改革500年を記念して③ 橋本 祐樹 (神学部助教)
人 嶺 重 淑 (宗教主事)
国 聖徒の日をおぼえて 平林 孝裕 (宗教主事)
理 前川 裕 (宗教主事)
総 小西 尚実 (総合政策学部准教授)
教 梶原 直美 (宗教主事)
-
- 10月26日(木) 神 徳田 有希子 (高等部教諭)
文 細川 正義 (名誉教授)
社 「幸せ」って何だろう?⑧ Christian Triebel (神学部助教)
法 宗教総部
商 Chapel in English Curtis Rigsby (宣教師)
国 Chapel in English Yu Miok (ソウル道峰女性センター理事)
総 KSCハンドベル&アンサンブル
聖和 岸本 朝予 (聖和短期大学非常勤講師)
-
- 10月27日(金) 院 Ruth M. Grubel (社会学部教授)
神 「自分勝手に話してはならない」 尾崎 武藏 (神学部3年)
文 Chapel in English Andreas Rusterholz (宗教主事)
経 経済学と聖書③ 井口 泰 (経済学部教授)
人 音楽チャペル 聖歌隊
理 内山 強 (日本基督教団和田山地の塩伝道所牧師)
-

◇ランパス早天祈祷会 毎週金曜日 8:20～8:40 ランパス記念礼拝堂 (西宮上ヶ原)
10月27日(金) 宗教改革記念日(10/31)を迎えるにあたって 浅野 淳博 (神学部教授)

「紙」の週報の効用

大 貫 隆 史

「紙」の新聞を本当に久々に購読し始めた。十年とは言わないが、少なくともこの三、四年は購読してこなかった。しかし、あらためて読んでみると「紙」の新聞はいい、なにやらにじつにいいのだ。というのも、「紙」の新聞には、一種の「絆」のようなものを作る、いわば「効用」（英語にすると“uses”だろうか）のようなものがあると思えるためである。

とても大事にしている、子どもの頃のとある光景が、私にはある。畳の上に「紙」の新聞を広げて一頁一頁ゆっくりと読んでいた祖母の姿。同じ新聞を炬燵の上に置き、少し前屈みになりながら丁寧な目を通していた祖父の姿（祖父は私と同じくやはり眼鏡をかけていた）。父母もまた、その同じ「紙」の新聞に目を通してゆく。母は椅子に座りながら、父は畳に座しながら、だったように記憶する。

さて、ふり返ると、この光景は何かの「儀式」のようでもあり、学問的にも実際そう言われているのかもしれないが、ともあれ、「紙」の新聞以外では、その実践がなかなか難しそうなこの習慣、いや文化が、我が家にはあった、ということになるだろうか。

そして、この「紙」の週報にも、同じことが言えるように思えてならないのである。配布された「紙」の週報を、友人や家族に見せたり読ませたりするなかで、やはり一種の「絆」のようなものがつくり出され、関西学院という（個性豊かな複数のキャンパスが相互に影響し合ってつくり出す）「場所」に、少なからぬ影響を与えてきたのではなかろうか。

私の現在の関心領域のひとつは、1970年代から80年代における英語圏ナショナリズム理論（とそれに関連する文学と文化）なのだけけれど、そうした関心の所在からすると、このコラムで触れている「絆」がそれぞれ関わってくるものが、英語で言えば“continuity”になるのか、あるいは“community”になるのか、もしくは（論争含みだが）“nation”のことになるのか、それとも、そのいずれでもないのか——こういった疑問を突き詰めていきたくなるのだが、この大問題はとりあえず括弧にくくりながらも、また、表紙がカラー写真となる電子版の良さを味わいつつも、個人的には、まず、「紙」の週報という、関西学院のよき伝統に、本稿が少しでも貢献できていれば、と願う次第である。

（商学部教授・言語コミュニケーション文化研究科教授）

●大阪梅田キャンパスチャペル

阪急梅田駅から徒歩すぐ、アプローズタワー14階の大阪梅田キャンパスでは、大学院授業期間中の毎週木曜日にチャペルアワーを開催しています。(17:50~18:20 1405教室)

10月主題:「宗教改革500年を記念して」

10月26日(木)舟木 讓(宗教総主事)

●関西学院 宗教改革500年記念礼拝 “Ein feste Burg ist unser Gott”

1517年10月31日、ドイツの修士マルティン・ルターがヴィッテンベルク城門に、教皇にむけて95箇条の質問状を公開した。これをきっかけとして西欧キリスト教に新たな動きが生まれ、ルターたちは「プロテスタント」(抗議する者)と呼ばれ、それまで支配的であったカトリック教会から、独自の「プロテスタント」キリスト教が成立することとなった。関西学院もまたプロテスタントの立場に基づくキリスト教主義によって立つものであり、本年その500年を特に覚えて、記念の礼拝を守ることとしたい(田淵院長)。

と き:2017年10月31日(火)17:00~18:30

ところ:ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)

内 容:メッセージ「かみはわがやぐら」田淵 結(院長)

演奏「バッハ／カンタータ第80番 全曲」ほか

主 催:関西学院

●第210回ランバス演奏会 クアクレとヴァイオリンによる「ラトビア伝統音楽の調べ」

ラトビア人は別名「歌う民」。古来より日々の生活、年中行事と冠婚葬祭、めぐる季節や美しい大地を歌で表現し伝えてきました。伝統的な民謡、大切に歌われている合唱曲を、クアクレとヴァイオリンで演奏します。

溝口明子／クアクレ 秦 進一／ヴァイオリン

と き:11月9日(木)17:00開演

ところ:ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)

主 催:宗教センター <入場無料>

●関西学院 宗教改革500年記念サロン

「デンマークと宗教改革」 講師:Christian M. Hermansen(法学部教授・宣教師)

「100年前の日本と宗教改革」 講師:岩野祐介(神学部教授)

と き:11月10日(金)17:10~18:40

ところ:大学図書館ホール(西宮上ヶ原)

主 催:宗教活動委員会教育研究部

※申し込み不要・無料(教職員・学生・一般対象)

●オルガン音楽の泉 2017 Fall semester

パイプオルガンの響きに癒うお昼のひととき、どなたでもご自由にお楽しみください。

第23回 11月28日(火) 濱 裕子(衣笠病院教会オルガニスト)

第24回 12月6日(水) 能島 亜未(本学オルガン講師)

いずれも12:50~13:20[開場12:40予定]

ところ:関西学院中央講堂(125周年記念講堂)

主 催:宗教センター

◆CD・DVDライブラリー

吉岡記念館事務室宗教センターには、教会音楽、キリスト教に関するCDやDVDを備えています。本学学生及び教職員(学生証または身分証明書必要)であればどなたでも利用できますので、希望者は事務室までお越しください。

◆使用済み切手収集にご協力ください

本学では日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)切手部の活動に協力し、使用済み切手の収集をしています。通常切手も対象としていますのでどうぞ吉岡記念館常設の回収箱にお届けください。

◆盲導犬育成のためご協力をお願いします

関西学院宗教活動委員会は、目の不自由な方々の社会参加促進を願い、社会福祉法人「日本ライトハウス」の募金活動に協力しています。吉岡記念館事務室はじめ各学部カウンターに募金箱を用意しておりますので皆様の温かいご協力をお願いいたします。